

令和2年7月31日

1学期を終えて

校長 檀 千種

1学期終業式も、始業式と同じく放送でおこなうこととなりました。

この学期は、生徒の皆さんにとって、わたしたち教職員にとっても、今まで体験したことのないものとなりました。新学期直前の4月7日に緊急事態宣言が発令され、4月8日はどうにか登校できたものの、そこから長い臨時休業期間が始まりました。

毎日、登校して授業を受けて、休み時間に大声で笑って、思いっきり部活動をやって、という、あたりまえだと思っていた日常を失ってはじめて、わたしたちはそれがどんなに価値を持つものかに気づきました。学校は、生徒の皆さんがいてこそ、輝くところです。皆さんがいない学校は、空っぽの箱のようでした。だから、5月後半から段階的に登校可能となり、学校に皆さんを迎えることができた時は、本当に嬉しかったです。

この1学期、学校行事や部活動の大会や試合など、あるはずのものがなくなって、皆さんは、それぞれ悔しい思いをしたことでしょう。けれども、その中であって、在宅学習や、行事、部活動、ボランティアなどにおいて、今できることがないか工夫してみよう、今できることを精一杯やろう、と懸命に努力していた皆さんの姿は、在宅中も登校できるようになってからも、随所でみられました。皆さんは校訓どおり、「自律」= 困難にへこたれず自分を律し、「創造」= アイディアを出し合って工夫して行動を起こし、周囲の人を動かしていきました。今日、皆さん全員に配られたクリアファイルも、休校期間のオンライン行事として行われたデザインコンテストの最優秀生徒作品を、PTAの方々が記念品の形にくださったものです。

困難の中にあっても、できることを工夫し、着実に成長していった皆さんの姿は、とても頼もしく、それは伊川谷北高校の誇りです。

さて、4月に皆さんに語ったことを覚えているでしょうか。それは、「いのちと、将来を大切にしてほしい」ということです。「あなた自身のいのちと健康、周囲の大事なひとのいのちと健康を守ることが、今のあなたの使命です。自分でしっかり考え、判断して、行動していきましょう。同時に、皆さんは、皆さんの将来についても大切に考え、行動してってください。」あのとき、わたしは、そう皆さんに語りました。

今、4月のあの時以上に、感染状況は拡大しています。だからこそ、あの時に語ったことに、もう一つ、加えたいと思います。それは、「心」です。お互いを大切に思う「敬愛」の心を、今まで以上に大切にしていってほしい、ということです。

誰もが感染するかもしれない病気であるにもかかわらず、一部では、その予防や治療の最前線で働く方々にまで、いわれのない中傷や差別が起こっています。私たちは、偏見に惑わされず、予防の面でも、自分や周囲の人が感染した時にも、お互いを思い合う心を大切に、それを実際の行動で示していきましょう。もし、夏休み中にも、不安なこと、心配なことがあれば、遠慮せず、担任の先生や部活動の顧問の先生など、先生たちに相談をしてください。

例年ちょうど今頃行われている京都の祇園祭、あれは、私たちが古典で習う平安時代、約1100年前の疫病退散を祈る行事が、今に至るまで続いているものです。感染症に立ち向かい、世が平らかであることを祈る心が、千年もの時を超えて後の世に受け継がれていき、その中で、美しい芸術作品としての山鉾や、祭の情景を生み出しました。

私たちの直面しているこの状況も、確実に未来へとつながっています。ここを乗り越えたからこそ生まれる芸術を、未来を、皆さんが生み出していてくれるものとわたしは信じています。

元気に、そろって新学期を迎えられることを、楽しみに待っています。